

本多辰次郎 （ほんたけいじろう） 國史學者、文學博士。慶應四年四月二十五日尾張國生乳、昭和十二年七月八日歿（八六一—九三六）。舊姓七里。號藤里、藤里生。明治二十一年東京帝國大學文科大學國史學科卒。大學院に進み幕末維新史を専攻。山形中學校校長を経て、四十一年宮内省圖書寮編輯官、大正十五年同省臨時帝室編修司御用掛となる。

著書に『維新史』（明治四十一年十一月）、二十八年早稻田大學出版部「大日本時代史」）、『勤王論之發達』（大正五年八月十二日日本學術普及會「歴史講座」）、（昭和六年）『皇章院夫人遺言方録』（猪谷宗五郎共編、大正七年四月）、（東京）『開祖親鸞聖人』（大正七年二月十五日國史講習會「文化叢書」）、（東京）『大正天皇奉悼講演集』（竹越與三郎・瀧根止直合著、昭和二年二月）『東京市教育司』、『文入』四大事件記念講演集』（横山健堂・勝田孫彌・大塚武松合著、昭和六年十一月十日侯爵曲郷家編輯所編刊）、『おたのみの花』（昭和十五年七月八日日本多文化編刊）等。

